堀船中校歌　「♪♪近代の大工業地♪♪」の謎？

堀船中の良さの一つに、式典や学校行事で、生徒のみなさんが元気よく、そして美しく校歌を歌うことがあげられます。みなさんの歌声はとっても素晴らしくいつも感動します。ところで、みなさんは、校歌の歌詞に「♪♪近代の大工業地♪♪」と言うフレーズがあることを、ふと疑問に思った人はいませんか？「大工業地ってどこにあるの？」と。

私も８年前に堀船中に来たばかりのころ全くわかりませんでした。しかし、ある社会科の研究会で、高名な歴史研究家である北区中央図書館「北区の部屋」の黒川先生と知り合うことができて、その謎が解けました！

黒川先生がお書きになられた刊行誌に「堀船は日本経済史の縮図」と記されていて、目が釘付けになりました。その内容を記します。

明治から現在まで、時代を象徴する工場が現れ、消えていった場所。それが堀船です。

明治の初め、堀船に現れたのはレンガ工場でした。堀船のレンガは、官庁や大工場、 鉄道、洋館などに使用され、建築の近代化に貢献しました。しかし、関東大震災後 コンクリート建築が増え、レンガ工場は廃業していきました。

かつて田中煉瓦工場を営まれていた田中家住宅をはじめ、堀船４丁目から新川遊園側に歩くと当時のレンガ塀が今でもあるのは、その名残なのですね。ちなみに荒川遊園もレンガ工場の跡地だったようです。

北区といえば、王子製紙ですが、堀船にも、明治 41 年(1908)、下野紡績王子分工場が造られました。当時日本は、繊維の輸出によって近代化を進めようとしました。後に、下野紡績は、吸収・合併により東洋紡績になりました。東洋紡績・鐘淵紡績(カネボウ)・大日本紡績(ユニ チカ)を三大紡と言います。大正 12 年(1923)の統計で、堀船の東洋紡王子工場には、約 2300 名が働いていました。

昭和 16 年(1941)、国家総動員体制の中で、東洋紡王子工場は陸軍に貸与されました。終戦までの間、東京第一陸軍造兵廠尾久工場という名で、兵器を生産したのです。戦後工場は陸軍から東洋紡へ返還されました。しかし、紡績業に戦前ほどの勢いは無くなっていました。

昭和 28 年、東洋紡は、王子工場をキリンビールに売却しました。このキリンビール東京工場は、昭和３２年からビールの生産を開始しました。戦後復興を成し遂げた後、日本人の食生活は豊かになって、日常的にビールを飲むようになったのです。その後キリンは生産体制を再編成し、平成 10 年(1998)、堀船の東京工場は生産を停止しました。

だから、堀船小学校の前を通る道を、地域の方々は「キリン通り」と呼ぶのですね！

そして現在、キリンビール工場の跡地には、読売新聞と日刊スポーツの工場があります。 最新の機器を備えた新聞工場は、まさに、次々に新しい情報を生み出す現代社会のあり方を示しているようです。

このように、明治の「近代化の時代」にレンガや綿糸、昭和の「戦争の時代」に兵器、戦後の「豊かさの時代」にビール、平成の「情報の時代」に新聞と、それぞれの時代の性格を表すような製品が、堀船において生産されてきたのです。

平成 26 年に、堀船中学校創立 60 周年を記念して、地域の方々の寄進により、赤レンガで門を作っていただきました。明治の近代化を支えた堀船のレンガ工場にちなんで、門を国産のレンガ作っていただいたのです。

このレンガには当時の在校生一人一人のイニシャルやデザインが彫られています。出来上がったレンガを生徒も手伝って積み上げました。まさに世界に一つだけのレンガ門ですね！

みなさんもこの機会に自分の住んでいる地域の歴史を知ることで、さらに地域が好きになり、地域を大切にする心を養っていくことを願います。

令和２年４月２４日